全国一斉休校「要請」と学童保育

開所の学童 現場の葛藤

教室より過密■集団感染の予防策なし

全国一斉休校で児童受け入れ

写真は朝日新聞3月4日朝刊「開所の学童 現場の葛藤」。リードから―新型コロナウィルス対策として政府が打ち出した突然の休校要請。そこで小学生の「受け皿」とされた学童保育（放課後児童クラブ）の現場に戸惑いが広がっている。一部では学校の教室より過密な状況もあり、「子どもたちが過ごす環境にもっと目を向けてほしい」との声が上がる。

「子どもたちの健康・安全を第一に、感染リスクに備えなければならない」。安倍晋三首相は2月29日に開いた記者会見でこう呼びかけ、異例の休校要請の必要性を強調した。一方で共働き家庭などへの対策として、厚生労働省は自治体に、学童保育を原則開所するよう通知を出した。だが、保護者や指導員らで作る民間の「全国学童保育連絡協議会」の佐藤愛子事務局次長は首をかしげる。現場では、全国的に過密化や施設の大規模化が進んでいるからだ。「教室よりも狭い場所で大勢の子どもが丸一日過ごすことになれば、健康面や安全面ではむしろ悪影響になるのではないか」

大阪府の牧師・学童職員の方からの同日「声」への投稿を抜粋して紹介する。

勤務先の学童の様子をお伝えしたい。今月から、通常の半日から1日保育になり、午前8時半から午後7時まで、約80人の子どもたちを教室よりやや狭い畳敷きの2部屋で預かっている。子どもたちの濃厚接触を避けることはできないと思う。学校の教室では個人の机と椅子が用意されているが、学童の部屋にはない。40人が至近距離で遊び、昼食やおやつは折りたたみの長テーブルで対面して食べている。部屋のスペースは1人あたり1畳ほど。そのように過ごす学童は、コロナウィルスに感染しない場所だとされているのだろうか。

先の記事のなかのジャーナリスト・江川紹子さんのコメント―全国一斉の休校要請をした安倍首相の説明を聞こうと、29日の記者会見場でずっと手を上げ続けたが、質問させてもらえないまま打ち切られた。そのことをツイートしたら、2日間で340万人超の人が見てくれた。聞きたかったのは、専門家会議が議論や提言したわけでもない一斉休校の要請を決めた根拠や実施で見込まれる効果、一方で新たな弊害やリスクについてなどで、学童の問題も聞くつもりだった。そうした国民が一番知りたい情報が会見では、まったく語られなかった、これでは不信が広がるだけ。…今後は、弊害をどうしたら少なくできるか、いろんな人たちの知恵を出し合っていくしかない。感染症の専門家はもちろん大事だが、それ以外の保育や教育の専門家などの声も聞きながら、よりよい方法を探っていくべきだ。

（2020年3月7日）